

【漁況】

[マアジ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成24年も13万4千トンと低調に推移しました。

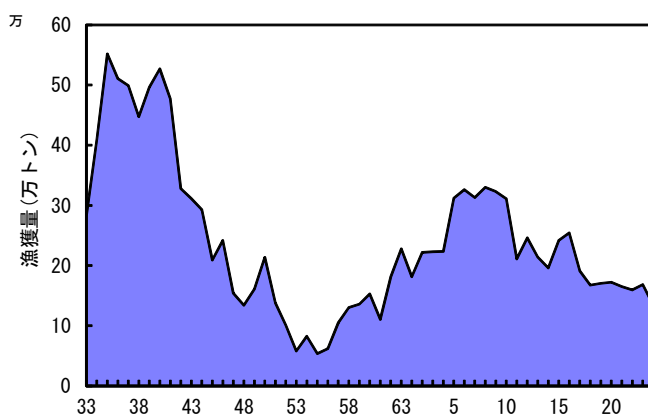


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 平成 26 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島近海での散発的な漁獲に留まりました。

薩南海域では、1・2 月に野間池沖、内之浦沖に漁場が形成されましたが、3 月には低調となりました。

4 港計のまき網では、マアジ仔、豆（1 歳魚：平成 25 年生まれ）主体に 1,186 トンの水揚げで、前年の 218 % 及び平年の 140 % となりました。

3. 平成 26 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ豆、小（1 歳魚：平成 25 年生まれ）で、期後半には、マアジ仔、豆（0 歳魚：平成 26 年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年を上回り、平年並となるでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

漁獲主体となるマアジ 1 歳魚は、1・2 月にややまとまった漁獲があり、前年を上回ると考えられますが、2 歳魚以上は、これまで低調に推移していることから前年並と考えられます。以上のことから、全体としては、前年を上回り、平年並と考えられます。

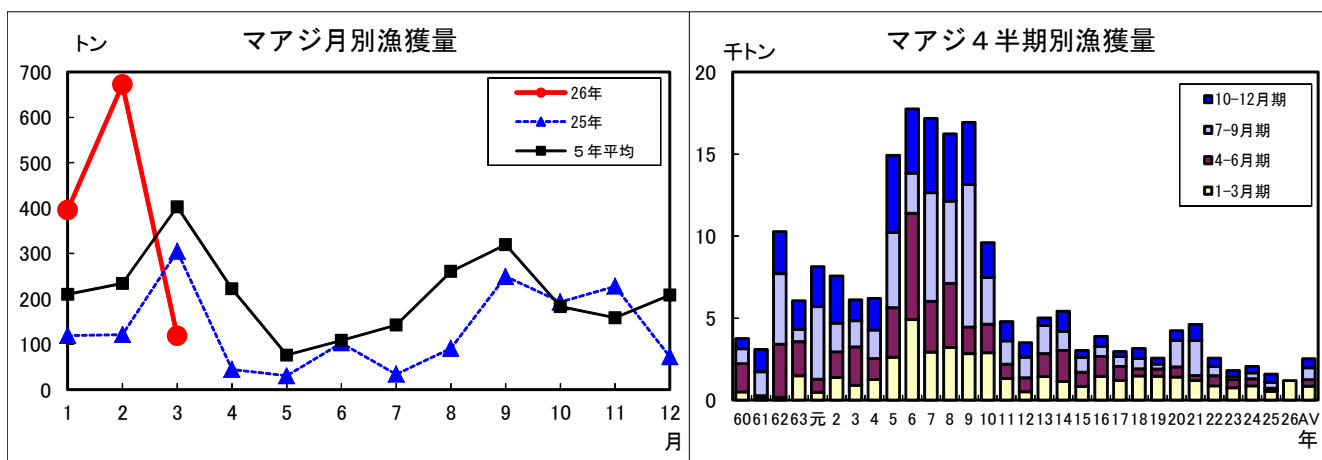


図 マアジまき網漁獲量変化（4 港計）

※平年値は過去 5 年（平成 21～25 年）の平均値（AV）、平成 26 年 3 月 26 日までの水揚量を使用

[サバ類]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トンにピークにマサバ資源水準の低下により年々減少し、昭和57年には72万トンとなりました。昭和63年以降はゴマサバの資源水準も低下したため、サバ類の漁獲量は大きく減少しましたが、平成5年から増加に転じ平成9年には84万9千トンまで増加しました。その後再び減少し、平成14年は28万トンになりました。平成17年・18年は再び増加しましたが、平成19年以降減少傾向にあり、平成24年は44万3千トンとなりました。

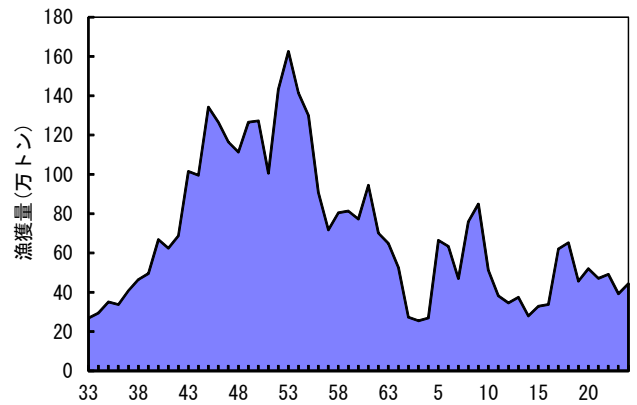


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 平成 26 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、漁場は形成されませんでした。

薩南海域では、2月に内之浦沖、3月に佐多沖、馬毛島沖、島間沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、薩南海域でゴマサバ中小、中（2・3 歳魚：平成 23・24 年生まれ）主体に 3,595 トンの水揚げで、前年の 64 % 及び平年の 66 % となりました。

3. 平成 26 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、ゴマサバ中小、中（2・3 歳魚：平成 23・24 年生まれ）でしょう。

来遊量は、前年・平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

ゴマサバ 1 歳魚は、加入状況が低調であることから、前年・平年を下回ると考えられます。

2 歳魚、3 歳魚は今期も漁獲の主体として来遊しますが、これまでの漁獲状況から前年・平年並と考えられます。以上のことから、全体としては、前年・平年並と考えられます。

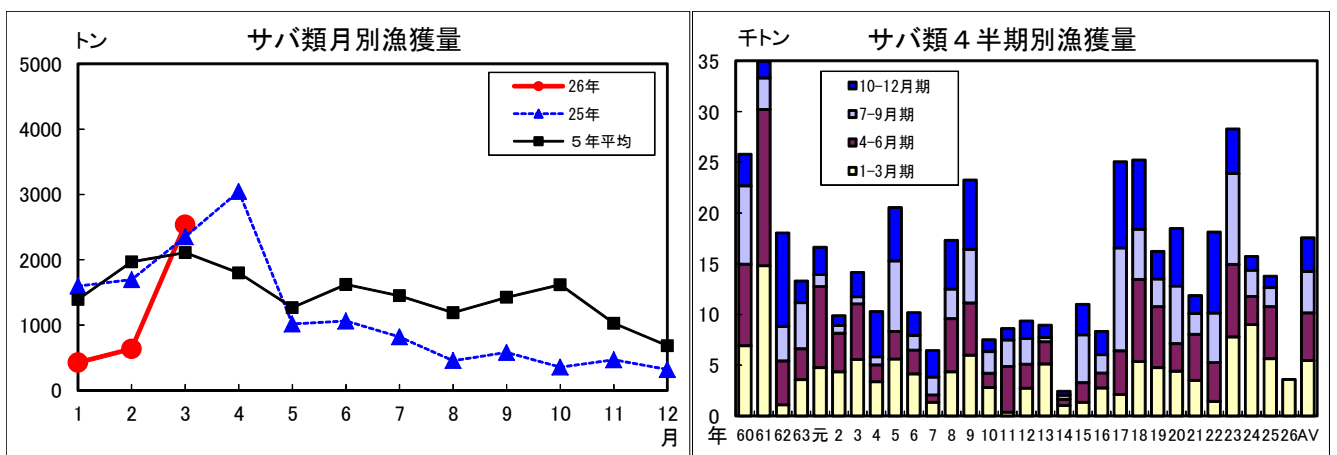


図 サバ類まき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 21～25 年）の平均値(AV)，平成 26 年 3 月 26 日までの水揚げ量を使用

[マイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

しかし、平成元年から全国的に漁獲量は減少を続け、平成17年には3万トンとなりました。

平成23年は18万トンと平成14年以降10年ぶりに10万トンを超える漁獲があり、平成24年も17万トンの漁獲がありました。

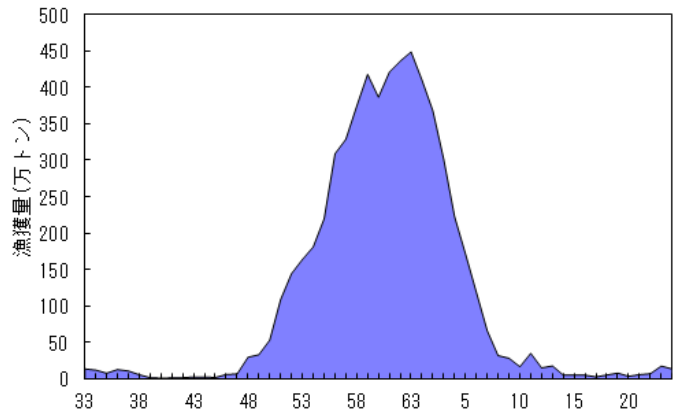


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成 26 年 1～3 月期の漁況の経過

【4 港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島東，縄瀬で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池，内之浦沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中羽(1 歳魚：平成 25 年生まれ)主体に 543 トンの水揚げで前年の 155 %，
 平年の 339 %でした。

北薩海域の棒受網は、32 トンの水揚げで前年の 65 %，平年の 115 %でした。

3. 平成 26 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、中羽(1 歳魚：平成 25 年生まれ)，小羽(0 歳魚：平成 26 年生まれ)でしょう。
 来遊量は前年を下回り，平年並みでしょう。

(根 拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期(1～3 月)，中羽の好漁は続きましたが、大羽(2 歳魚以上)がほとんど見られなかったことから、中羽については前年並みの来遊が期待できるものの、昨年同期の漁獲の主体であった小羽については、前年ほどの来遊は見込めず、平年並みの来遊にとどまると考えられます。

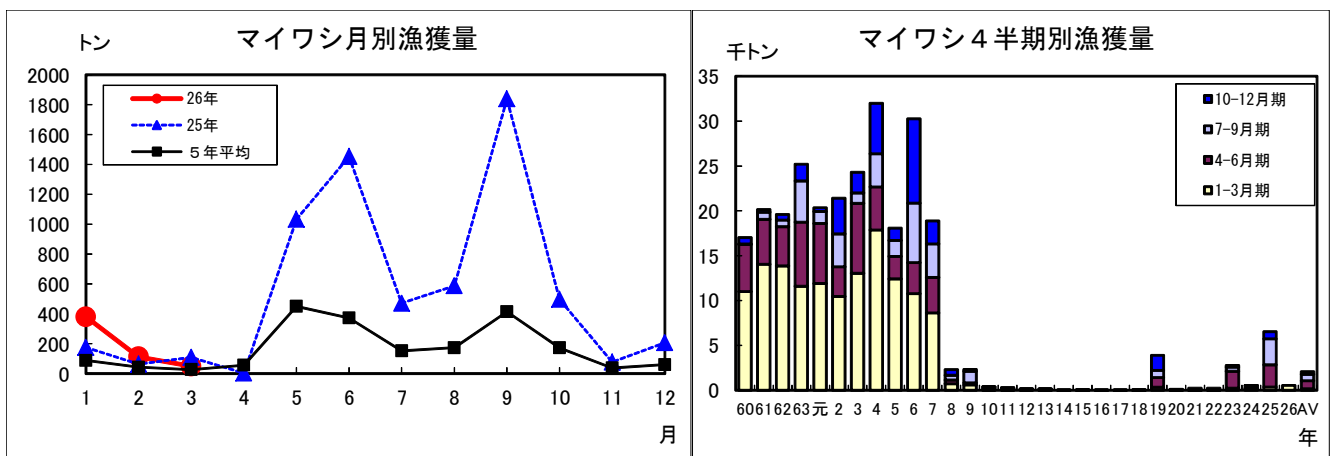


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

※平年値は過去 5 年（平成 21～25 年）の平均値(AV)，平成 26 年 3 月 26 日までの水揚量を使用

[ウルメイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代から60年代にかけて3～5万トン前後で推移しました。

その後、増減を繰り返しながら増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとなりましたが、翌年以降減少傾向に転じ、平成12年は2万4千トンとなりました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成23年には8万5千トンと昭和33年以降最高の漁獲量となり、平成24年も8万1千トンと好調に推移しました。

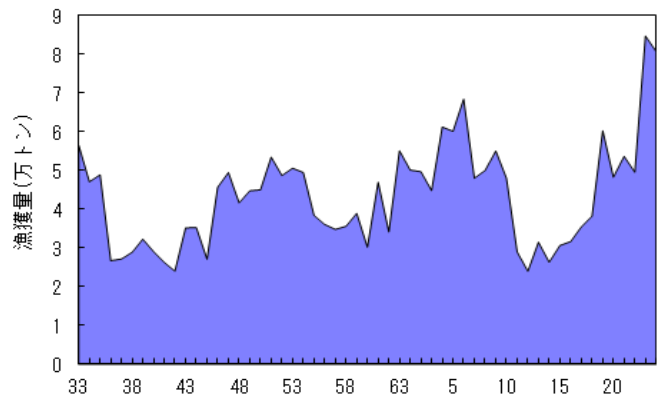


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移 年

2. 平成26年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、野間池、内之浦沖、立目崎に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、1歳魚（平成25年生まれ）主体に732トンの水揚げがあり、前年の57%、平年の64%でした。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島沖で散発的に漁獲されるにとどまり、42トンの水揚げで前年の11%、平年の22%と低調に推移しました。

3. 平成26年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、期の前半は中・大羽（1歳魚・平成25年生まれ）、期の後半は小羽（0歳魚・平成26年生まれ）になるでしょう。

来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

これまで好漁が続いてきたウルメイワシですが、平成26年になり1～3月にかけてまき網、棒受網ともに低調に推移していることから、前年ほどの来遊は見込めないと考えられます。

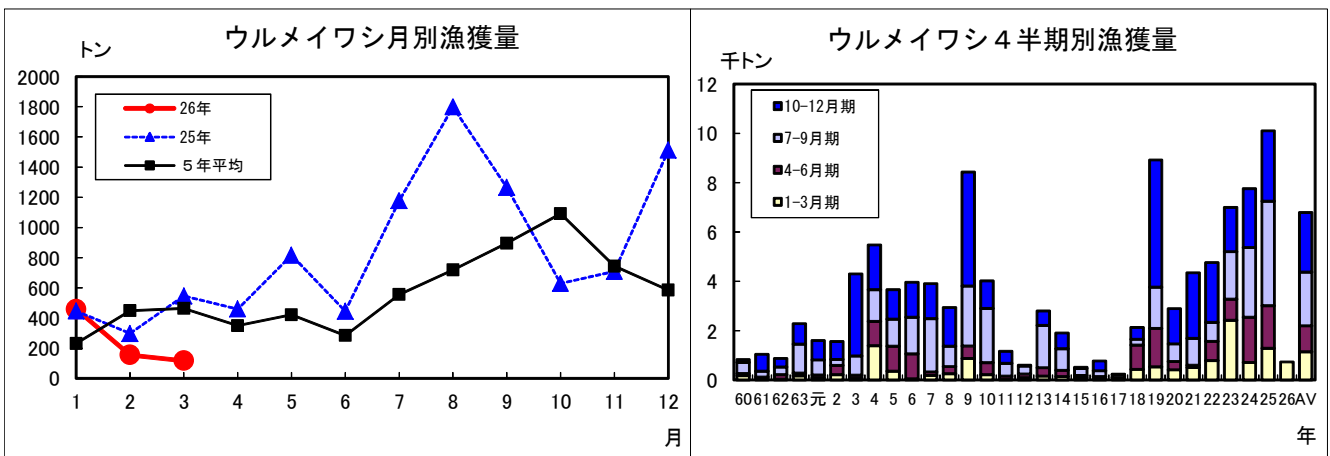


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値（AV）、平成26年3月26日までの水揚げ量を使用

[カタクチイワシ]

1. 漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後、徐々に漁獲量は増加し昭和59年には22万トンとなりましたが、昭和62年には再び14万トンまで減少しました。

昭和63年以降は大きく増減を繰り返し、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成24年は24万5千トンとなりました。

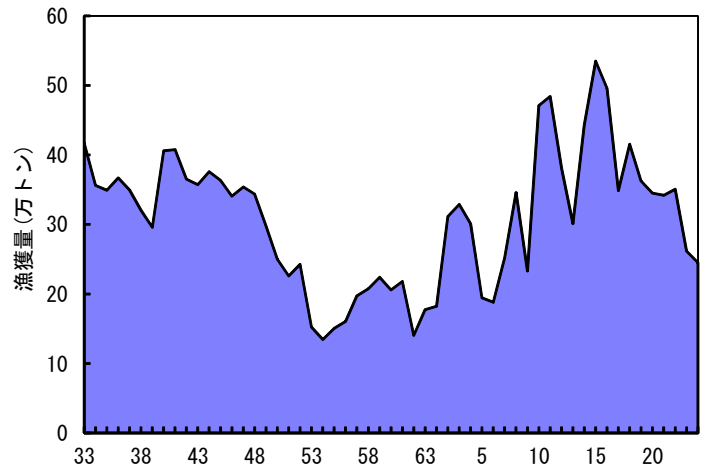


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 平成26年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、主に長島に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽（平成25年生まれ）主体に308トンの水揚げで、前年の567%、平年の241%でした。

北薩海域の棒受網では、長島に漁場が形成され、中羽（平成25年生まれ）主体に142トンの水揚げで、前年の110%、平年の142%でした。

3. 平成26年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は大羽（平成25年生まれ）で、後半は中羽（平成25年生まれ）が混じるでしょう。

来遊量は、前年を下回り、平年並と考えられます。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況は好調なもの、西薩海域のバッチ網の漁況から非常に好調であった前年ほどには来遊水準は高くないと考えられ、前年を下回り、平年並と考えられます。

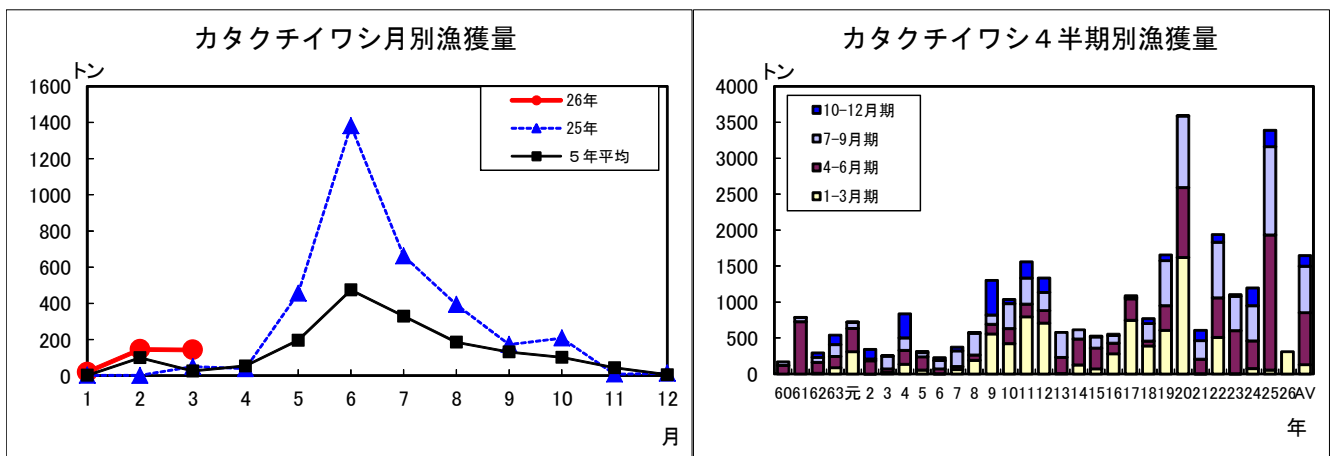


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)、平成26年3月26日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

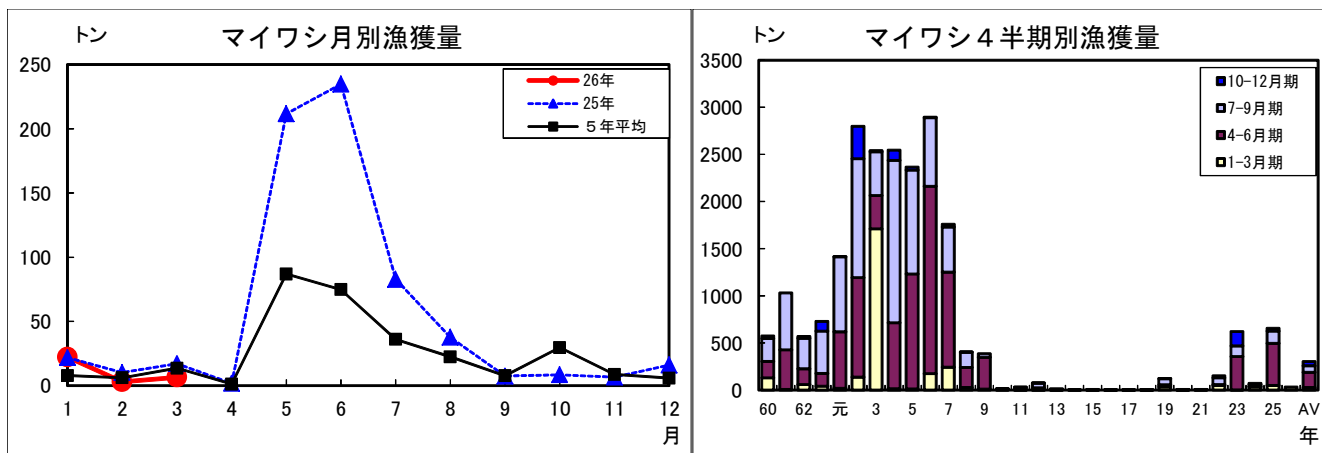


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

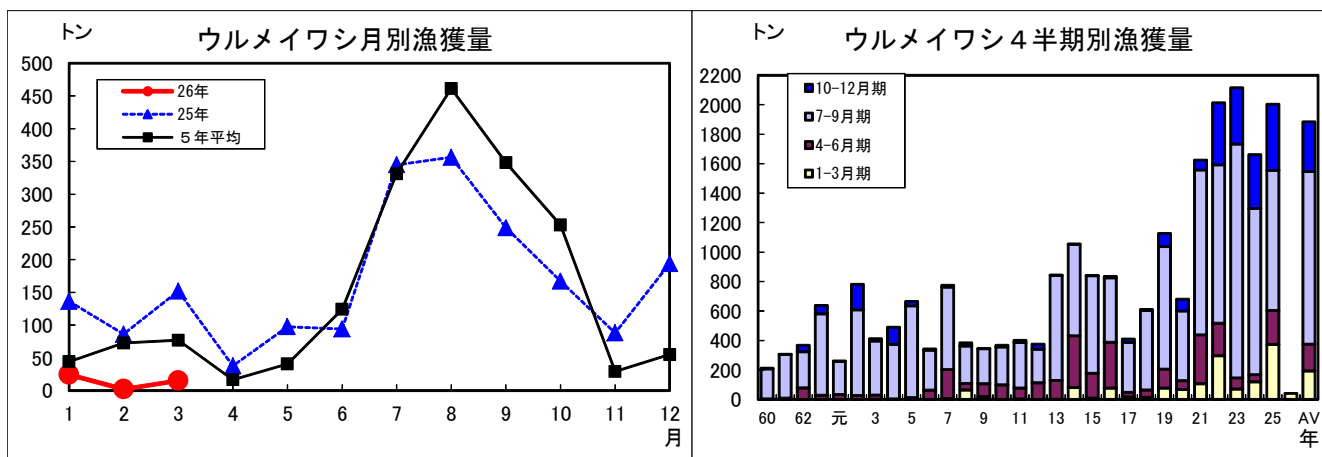


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

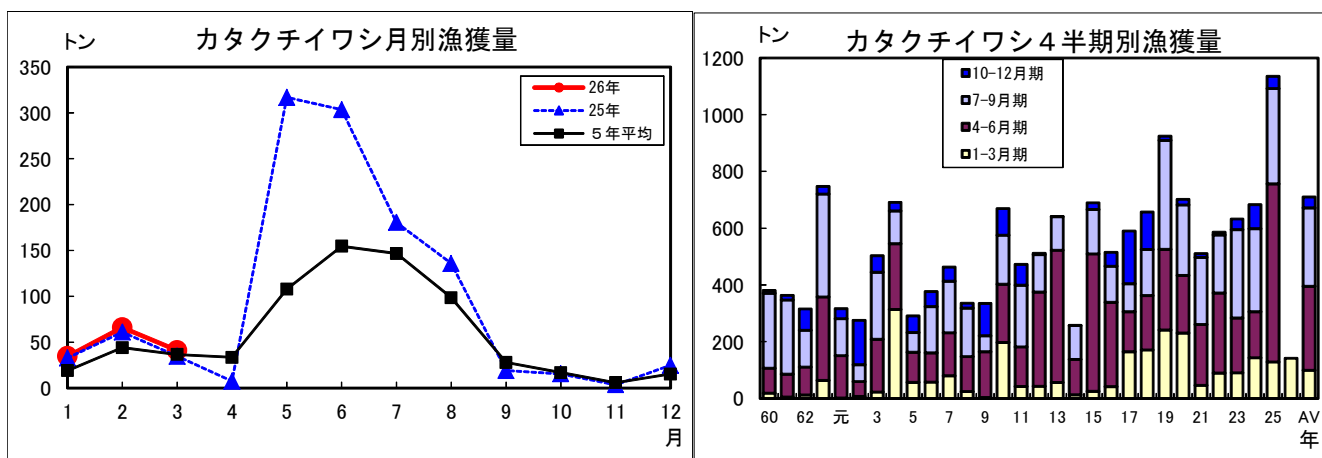


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成21~25年)の平均値(AV),平成26年3月26日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ，モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年1～3月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間で推移しており、平成25年は3,512トンとなりました。

平成26年1～3月は、薩南海域では、クサヤモロ中小、小主体の漁獲があり、期全体で503トンの水揚げで、前年の69%及び平年の74%となりました。

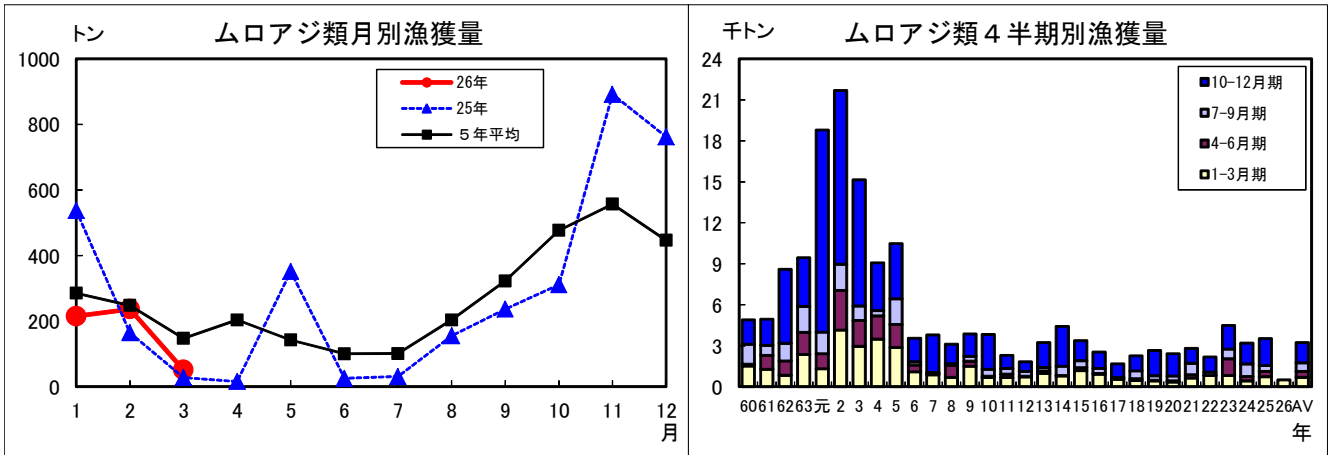


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)，平成26年3月26日までの水揚げ量を使用

〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年1～3月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成25年は1,622トンとなりました。

平成26年1～3月は、薩南海域では、島間沖でオアカムロ中主体の漁獲があり、期全体で227トンの水揚げで前年の109%及び平年の76%となりました。

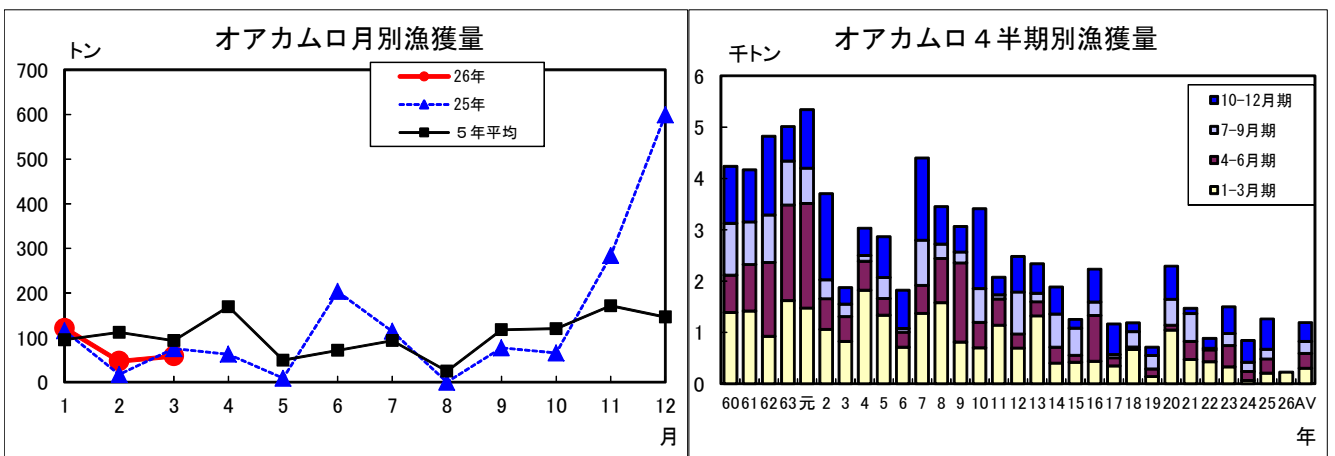


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)，平成26年3月26日までの水揚げ量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成26年1～3月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

22, 23年はやや増加したものの依然低調で、25年は392トンとなりました。

平成26年1～3月は、1・2月に、串木野沖、野間池沖でマルアジ豆主体のまとまった漁獲があり、期全体で235トンの水揚げで、前年の363%及び平年の253%となりました。

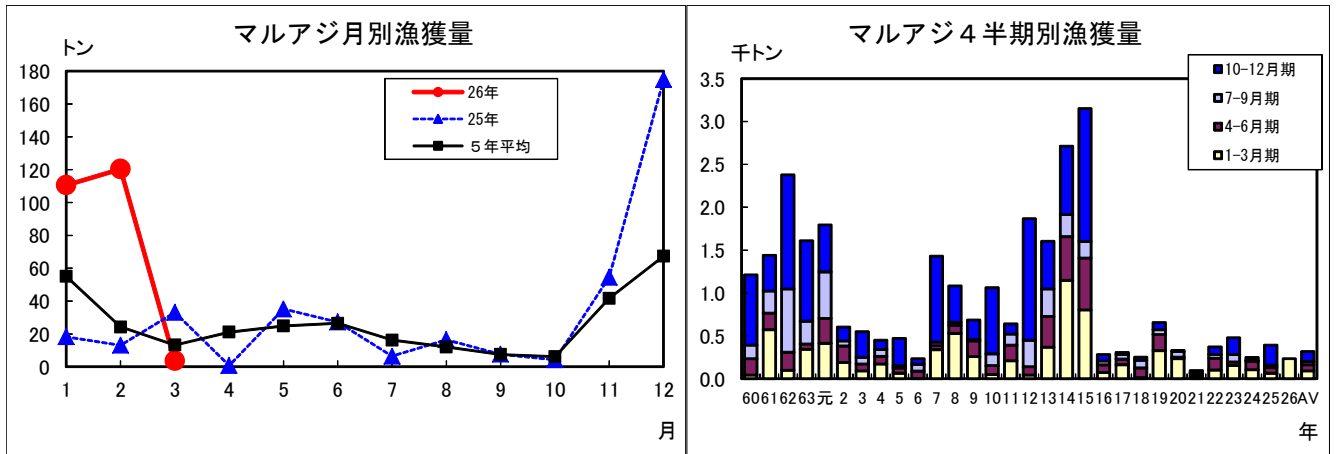


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成21～25年）の平均値(AV)、平成26年3月26日までの水揚げ量を使用